

## 第 6 回尖石縄文文化賞

受賞者:谷口康浩

尖石縄文文化賞条例にもとづく、同賞の選考委員会は、矢崎和広茅野市長の諮問を受け、委員 4 名の出席の下に、8 月 31 日、尖石縄文考古館で行われた。今回、選考・審査の対象となったのは、自・他薦を含めて、個人延べ 10 件であった。

候補者の内訳は、40 歳代から 70 歳代におよび、研究者としての所属機関や、その研究歴など多彩で、また寄せられた「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が尖石遺跡の発掘や研究をつうじてめざした、縄文時代の歴史の本質に迫る、すぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本年第 6 回目を迎えた本賞の制定の趣旨が、広く学界等一般に周知された結果として、誠に喜ばしいことである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会では慎重な審議を重ねた結果、第 6 回尖石縄文文化賞の受賞者として、谷口康浩氏（東京都）を、全会一致で推薦することに決定した。

同氏は國學院大學大学院文学研究科博士課程後期中退後、現在、國學院大學等の非常勤講師を務めている。

縄文時代に関する著書・論文は多いが、本年発行された『環状集落と縄文社会構造』は、これまでの研究および活動成果をまとめたものとして高く評価される。

宮坂英弑の目指した縄文集落研究を継承・発展させ、現時点での集落論の到達点にあり、茅野市が本賞を制定した意義にそった、まことにふさわしい受賞者である。

2005 年 8 月 31 日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 戸沢充則



第 6 回受賞者 谷口康浩 氏